

四日市市

平成 26 年度日本語学習支援事業

目次

I 事業完了報告

II コアメンバー会議 会議録

- 1) 第1回 3) 第3回
- 2) 第2回 4) 第4回

III 日本語教室ネットワーク会議 会議録

- 1) 第1回 3) 第3回
- 2) 第2回

IV 日本語教室巡回記録

- 1) 多文化共生サロン 4) くすのき日本語教室
- 2) YIC 日本語サークル 5) 四日市日本語サークル
- 3) viva あみーご 6) 日本語茶屋

V 日本語レベルチェックテスト（2014 年度版）

- 1) 聞く・話す（ロールプレイ）
- 2) 読む・書く
- 3) 社会知識

平成 27 年 3 月

特定非営利活動法人 多文化共生リソースセンター東海

**四日市市平成26年度日本語学習支援事業
委託業務完了報告書**

平成27年3月29日

特定非営利活動法人

多文化共生リソースセンター東海

代表理事 土井 佳彦

1. 委託業務の名称

「平成26年度日本語学習支援事業」

2. 委託期間

平成26年5月20日 ～ 平成27年3月23日

3. 委託業務の概要

外国人市民が地域に住む対等な構成員として、安定した就労等を得て、自立した生活を送ることができるよう、日本語学習支援するボランティアが学習者の日本語能力レベルを把握し、適切な教材や学習方法を提供することによって、それぞれのレベルに応じた日本語学習支援の仕組みを作る。

4. 委託業務の内容

1) 日本語学習支援における指導、助言を行うことができるアドバイザーを市内の日本語教室へ巡回させること（*詳細は後述の巡回記録を参照）

巡回日	巡回先	巡回者
平成26年7月25日	多文化共生サロン	岸晴苗、土井佳彦
平成26年8月19日	viva あみーご	岸晴苗
平成26年8月31日	くすのき日本語教室	岸晴苗、土井佳彦
平成26年8月31日	YIC 日本語サークル	岸晴苗、土井佳彦
平成26年12月10日	四日市日本語サークル	岸晴苗
平成26年12月19日	日本語茶屋	岸晴苗
平成27年1月18日	くすのき日本語教室	岸晴苗
平成27年1月18日	YIC 日本語サークル	岸晴苗
平成27年3月10日	viva あみーご	岸晴苗
平成27年3月21日	日本語茶屋	岸晴苗

2) 市内の日本語教室の代表者や関係機関等と本市の日本語学習支援の仕組みについて協議を行うこと（*以下、いずれも詳細は後述の各会議録を参照）

【コアメンバー会議】

対象教室：多文化共生サロン、YIC 日本語サークル、くすのき日本語教室

外部専門家：名古屋大学

事務局：四日市市多文化共生推進室、多文化共生リソースセンター東海

回数	日時	参加者	議題
第1回	平成 26 年 7 月 17 日	9 名	事業説明、各教室の現状
第2回	平成 26 年 10 月 29 日	9 名	新版「よっかいち日本語能力判定」
第3回	平成 26 年 12 月 24 日	10 名	各種評価ツール、
第4回	平成 27 年 3 月 10 日	10 名	よっかいち日本語能力判定 2014(案)

【ネットワーク会議】

対象教室：多文化共生サロン、YIC 日本語サークル、くすのき日本語教室、

viva あみーご、四日市日本語サークル、日本語茶屋

外部専門家：名古屋大学

事務局：四日市市多文化共生推進室、多文化共生リソースセンター東海

回数	日時	参加者	議題
第1回	平成 26 年 9 月 30 日	11 名	事業説明、各教室の現状
第2回	平成 26 年 11 月 21 日	10 名	各教室の現状と課題
第3回	平成 27 年 1 月 27 日	12 名	課題に対する改善策

3) 他市等の日本語学習支援内容を調査研究し、本市の日本語学習支援の現状に応じた学習者のレベルチェック方法、教材選び方、カリキュラムの組み方等を提案すること

- ・レベルチェック方法については、「日本語能力試験（JLPT）」、「とよた日本語能力判定」、「居場所感尺度」等をもとに、別添「よっかいち日本語レベルチェックテスト(2014年度版)」を作成。

- ・教材の選び方、カリキュラムの組み方等については、検討結果を「平成 26 年度日本語ボランティア研修（2回）」において提示。

4) その他、本事業の目的を達するのに有効と思われること

・2) の各会議において、学習者の日本語能力以外に「学習者の日本社会に関する知識」、「学習者にとっての日本語教室における居場所感」、「ボランティアにとっての日本語教室における居場所感」、「日本語教室のある地域の住民にとっての教室の意義等」についても測定を検討することが必要との意見が出されたことから、次年度以降に向けて各測定方法等について事前検討を行った。

5) 業務完了報告書の提出

本書

5. 次年度以降に向けた提案

コアメンバー会議および日本語教室ネットワーク会議において、参加者より出された意見をもとに、今後の同事業において以下の事項について検討することを提案する。

1) 地域日本語教育コーディネーターの養成・配置

市内全体の地域日本語教育のコーディネーターを担当する専門家を養成し、然るべき待遇を持って適当な部署に配置する。

2) 日本語ボランティア養成講座の再開

多文化共生社会における「生活者としての外国人」に対する日本語学習指導への理解と基本的なノウハウを身につけるための講座を年1コース以上開催する。

3) 日本語教室への行政情報提供の充実

市内の各日本語教室に、適宜、広報誌や生活ガイドブック、各種通知等を郵送するなどし、教室参加者に市政情報等の情報共有を図る。

4) 日本語教室の新設

現時点で日本語教室のない北部地域等において、またすでに教室のある地域においても日本語学習のニーズ（内容・方法・時間帯等）に応じ新たに日本語教室を開設する。

5) 自宅学習の奨励と学習機会の提供

継続的な教室参加が難しい潜在的学習者がいることを考慮し、通信講座やeラーニング等、自宅学習機会の提供についても検討する。

第1回コアメンバー会議 会議録

日時：2014年7月17日（木）15:00～17:30

場所：四日市市役所 6階 604 会議室

出席：西川（四日市多文化共生サロン）、はざま・加藤（くすのき日本語教室）北村（名古屋大学）、加藤（YIC）、浅野・市川（四日市市）、岸・土井（多文化共生リソースセンター東海）＊敬称略

1. はじめに（浅野）

- ・平成23年度の日本語ボランティア研修会での意見をもとに、構想をまとめた。
- ・いちばんの課題は、「教え方」だと感じている人が多い。その他、学習者のニーズやレベルの把握の仕方、ネットワーキングという声もあった。
- ・今後、現場で活動する日本語ボランティアの皆さんの助言をいただきながら、現場で活用できるものにしていきたい
- ・委託先の多文化共生リソースセンター東海さんのほうで進めていきたたく

2. 自己紹介

（土井）

名古屋をはじめ、東海4県において、多文化共生にかかわる活動をしている。2008年から4年間、名古屋大学でとよた日本語システムの立ち上げに従事。とよたをモデルに四日市市と現場のつなぎ役として、日本語学習支援を進めたい。

（北村）

名古屋大学の職員で、とよた日本語システムを担当。日本語学習支援の総括的な役割を担っている。

（岸）

四日市大学や四日市日本語学校で日本語教師をしている。各日本語教室を巡回して、活動状況を把握させていただきたい。

（西川／サロン）

四日市市文化まちづくり財団の職員で、サロンに派遣され、日本語教室を担当している。大人向け教室は月曜から金曜の毎日、子ども向け教室は、月曜と金曜に実施している。

(はざま／くすのき)

5年前に市を退職、名古屋YWCAで日本語教師資格取得、桑名ハローワーク&桑名日本語教室で3年、四日市ハローワークに異動してから「くすのき」へ。

(加藤／くすのき)

くすのき日本語教室で5～6年活動し、月に数回携わっている。初心者向けのボランティア研修がきっかけ。YICの日本語サークルでも活動していた。日本語資格はない。

(加藤／YIC)

四日市市文化まちづくり財団の職員で、四日市国際交流センターに在籍。日本語教室のコーディネートを担当。以前ブラジルで1年教えていた、日本語資格なし、教室はマンツーマン形式。

3. 事業概要（浅野）

(目的) 日本語習得から、安定就労や地域参画、生活の自立を促すこと

(主催) 四日市市

(コアメンバー会議参加教室)

くすのき日本語教室、四日市多文化共生サロン、YIC

(日本語能力判定会議参加教室)

市内6教室

(アドバイザー) 名古屋大学とよた日本語学習支援システム (担当：北村)

(委託) NPO 法人多文化共生リソースセンター東海 (担当：岸、土井)

- ・平成26年度から3カ年の予定で、市全体の日本語学習環境の充実を図る。
- ・初年度は、市内6つの日本語教室（大人対象）関係者等から、日本語学習支援に関する現状を共有するとともに今後の充実に向けた意見交換の場をもち、具体的な課題や改善点を探るところからスタートする。また、平成26年度内に、市全体で共通して活用可能な日本語能力判定ツール（第1版）を開発する。
- ・以上において、日本語能力判定会議（以下、判定会議）を計5回程度、コアメンバー会議（以下、コアメン会議）を計10回程度開催予定。
- ・判定会議においては、各教室から日頃の教室運営状況や課題とともに、教室活動を通じて測定すべき日本語能力等に関する意見を聞かせていただき、判定ツールができあがった際にはモデル的に活用していただくことをお願いしたい。
- ・コアメン会議においては、判定会議で出た意見等をもとに、判定ツールの作成や市

内の日本語学習環境の充実に向けてご協力をいただきたい。

4. 各教室の現状 (*S=学習者、V=ボランティア)

(加藤/YIC)

- ・延べ約 120 ペアが活動中 (S:120,V:100)。基本、固定ペア
- ・日曜日の希望者 (ベトナムやインドネシアの研修生) が多く、V も場所もパンク状態
- ・入室時に在留資格と在留期間を確認。半年以上滞在予定の人に限る
- ・日曜の午後の待ちリストが多い (午前中は他の教室で勉強)

(加藤/くすのき)

- ・日能試希望で、7月と12月の前に増えて、その後減るとというのが毎年の傾向
S7~10名程度。以前は日配もいたが、今はほとんど研修生。一時期はVのほうが多かったが、今はSが少し増えている
- ・V7名、うち2名が経験の長い有資格者→教え方はだいたい解決
- ・レベルや目的に応じて4つのクラス (会話、初級レベル、N1,2レベル、N3,4レベル) のいずれかに入ってもらおう
- ・学習内容の引き継ぎをしている
- ・市からの教材費補助で教材は賄えている。1枚10円コピーを団体が負担。
- ・Vは無償。学習者からは100円/回をもらっている。
- ・来た人はインタビューののち、受入れている。
- ・年間カリキュラム等は、とくにない。試験前はSが持ってくる問題集をやることが多い

(西川/サロン)

- ・S30、V30ぐらい。
- ・Vは、モチベーションの低い子どもたちへの指導に苦慮している様子
- ・YICは週1回限定なので、それ以上学習したい人がサロンに来ている
- ・毎月10名程度、新規希望者が来る
- ・場所が狭いのと、Vが若干少ないのが悩み。ただし、Vが増えても場所がないし、Vの育成や対応力も課題
- ・日曜日は6~10名

5. 意見交換

(西川/サロン、加藤/YIC)

・教室をかけもちしている S については、他で何やっているかを聞いて可能な範囲で対応も検討。YIC ではペアの講師次第。

(加藤／くすのき)

・S が来たりこなかったりするので、準備した通りにできずストレスが溜まる。

(加藤／くすのき)

・問題集をやるだけでは合格できない。基礎をしっかりやるべきだと思うが、問題集をやる方が、S はやりがいがあるようだ。

(加藤／YIC)

・合格するためのプログラムを立てることを V がやるべきなのか、どこまでフォローすべきか

(加藤／くすのき)

・基本的には企業側が用意するべき。

(はざま／くすのき)

・今は過渡期なので、学習者の希望に応えるようにしている

(加藤／YIC)

・試験対策を充実させるのがいいのか？V にも研修させるべきか？市の V 教室に対する考え方は？

(浅野)

・V 教室に何をどこまでしてもらうのか、は考えがまとまっていない。この場を通じて意見交換していきたい。

(加藤／くすのき)

・市からの教材費補助について、もっとフレキシブルに活用できないか？また、なやプラザの調理室利用 5,000 円／回に補助してもらえないか？

(浅野)

・個別に検討する。

6. よっかいち日本語学習支援（案）について

（はざま／くすのき）

- ・これは、市としての支援か？

（浅野）

- ・そうだ。

（はざま／くすのき）

- ・桑名 HW で外国人担当をしていたとき、車の免許が取れない／取らさない、日本語を覚えさせないような企業もあった。

（はざま／くすのき）

- ・JICE の教室では履歴書の書き方や求人票の見方を教えていたが、それは HW でも指導できるので、ニーズのギャップを感じていた。連携がとれていないようにも感じた。地域を越えて教室に通っている人もいたので、情報共有や関係機関の連携不足を感じている。

- ・さらに S に対応するには、V 不足を感じる。新しい V 養成、教室立ち上げも必要では？

（浅野）

- ・以前、文化庁委託事業でかなりの V を養成したが、その後活動に参加している人は少ない。研修のあり方を再考する必要あり。
- ・本事業は市のプランの一環なので、今年度から 3 カ年で取組んでいきたいと思っている。

（はざま／くすのき）

- ・想定している「仕組み」とは？

（浅野）

- ・「とよたシステム」をモデルに、四日市に即したものを。とくにレベルの把握を。

（はざま／くすのき）

- ・各教室の規模がそれぞれ異なる。レベルが把握できなくて悩んでいるということではなく、どのクラスに当てはめるかを悩んでいる。それは、各教室で考えるしかない。

(加藤／くすのき)

・昨年度のレベルチェックシートを教室で使ってやってみた。ベテラン V は冷ややかな反応。インタビュー項目は一部役に立つが、結果をどう反映していけばいいのかわからない。

(加藤／YIC)

・支援対象の範囲は？

(浅野)

・市内在住・在勤の外国人で、主に定住・永住者。現実的な対応としては、実習生も対象にはなる。

(加藤／YIC)

・具体的な対象者がわからないと、目指すところや対策が立てられない。ニーズや教室の形態、時間帯も変わってくる。

(西川／サロン)

・本当に支援が必要でも、教室に来られていない人もいるかもしれない。

(加藤／YIC)

・この支援のゴールは？

(はざま／くすのき)

・「安定した就労」が目的なら、それ専用の日本語教室をつくって、必要な人材を育成することが大事では？

(浅野)

・来年度以降の事業内容で検討する。

(加藤／くすのき)

・文化庁5点セットの活用については？

(浅野)

・V でやってもらうには難解すぎる。エッセンスを取り入れながらやる必要はある。

(はざま／くすのき)

- ・「既存教室の質の充実」とは？どこに不足点を感じている？

(加藤／YIC)

- ・教室によっては、指導のアドバイスを受けたいという声もある。
- ・どこに向かっていくことを期待しているのか？

(浅野)

- ・もっと地域にとけ込んでもらいたい。

(加藤／くすのき)

- ・レベルチェックの結果をどう生かして、どんな目的に近づけていくのか？

(北村)

- ・テストをすることが目的ではなく、統一した基準で評価が測られることが大事。

(はざま／くすのき)

- ・統一的な指標は必要ない。

(加藤／YIC)

- ・お金がないから日本語学校に通えない、という人ばかりでもない。
- ・レベルチェックシートは、YIC では活用できない。継続参加が少ないから。データは共有されないと意味がない。

(加藤／くすのき)

- ・「とよたシステム」での、レベルチェックをしているメリットは？

(北村)

- ・複数の教室に参加している人のレベルが共通してわかる。1ターム（3か月）ごとに継続チェックして推移を測っている。

(加藤／YIC)

- ・学習成果を示すことは大事。クラス分けや指導に直接生かすのは難しい。

(はざま／くすのき)

- ・日本語だけじゃない、生活改善にどれだけ貢献できたのかを測るのは大事。

(加藤／YIC)

- ・文化庁や、とよたシステムではなく、四日市のものをつくっていききたい。

7. 今後について

(浅野)

- ・このコアメンバー会議は、年度内に計10回程度予定している。
- ・今日の議論をもとに、改めて日程調整し、次回開催日時の連絡をする。
- ・今後は、委託先の多文化共生リソースセンター東海から連絡する。

以上

第2回コアメンバー会議 会議録

日時：2014年10月29日（水）18:00～20:00

場所：四日市市総合会館7階第2研修室

出席：西川（四日市多文化共生サロン）、加藤・羽間（くすのき日本語教室）、北村（名古屋大学）、廣田・浅野・市川（四日市市）、土井・岸（多文化共生リソースセンター東海）＊敬称略

（土井）

- ・配布資料の確認及び会議次第の概要説明
- ・次第の概要説明
- ・文化庁の資料：日本での生活をスムーズに送ることができる判定
- ・オランダの資料：法制度あり。言語能力だけでなく生活知識を教える。文化庁も参考にした。

1. よっかいち日本語能力判定について

- ・今の状態を測り、今後に繋げるために行う。
- ・まずは、市内共通のもの。いずれ教室ごとにアレンジできるといい。

2. 評価項目

- ・必ずしも日本語能力だけを測るものではない。
- ・日本語能力だけでなく、社会知識も測る。

3. 判定方法と結果の活用

- ・年度末に、任意の試験（プレテスト）を1日設ける。
- ・各教室での活用も可能。
- ・テストを取り寄せることも可能。
- ・継続の意味。成果の評価。市の窓口等での学習機会の提供につなげる。

4. 意見交換

（西川）

そもそも、この会議の目的は何で、対象は誰で、教室間のネットワークを作る目的は何か？

（浅野）

各教室の意見を聴いて、学べることがあれば学び、今後の事業に発展させていきたい。狙い以外にも教室間の親睦が図れると思う。

(西川)

教室を掛け持ちしているボランティアがいるので、他教室の情報が入り、普段からネットワークはできている。

(土井)

ネットワークでこんなことができたらいいのに、というアイデアはあるか。

(西川)

横とつながりたいと思うボランティアは少ない。事例を聞いたところで、それだけのこと。みえにほんごネットワーク(みにネット)に行ってもそんな感じ。メーリングリストを作るだけでは継続できない。ネットワークには、コーディネータが必要だと思う。

(羽間)

みにネットに行かなくなった。このネットワークも3年後に来なくなるのでは。市には、ボランティアの募集、育成を行ってほしい。

(土井)

一個人、一教室の声では行政に届かない。ネットワークがあれば、事業で活動している皆の声が一つとなり、総意として提案できる。目の前の学習者のことだけを考える人には負担に感じるだろう。しかし、社会全体の問題にしていくためには、ネットワークが必要。

自身も東海地域全体に繋げるため、四日市市の事業に参加するのは意義があると考えている。行政の担当者が変わっても、日本語教室を継続していくために、形として残していきたい。

(加藤)

前回出席したメンバーからも聞いたが、会議の意義がよくわからない。今日も参加者が少ないようだが、皆の意識がないことの表れではないか。

(土井)

全日本語教室から誰でも参加でき、色々な意見を出し合い、各教室の課題や問題点を挙げるのがネットワーク会議。コアメンバー会議は、基本的に教室の代表者をお願いし、具体的に課題に取り組み、改善策を考える。他にも考えていく課題があれば、声を拾いたい。

(羽間)

今日の会議は、判定がメインなのか。判定されて、成果が出ないとすると、事業縮小

につながることを恐れがある。

(室長)

外国人市民の定住化が進んでいる。これまでの外国人市民のための施策は、通訳の派遣など帰ることが前提。外国人市民には、日本語を覚え、日本人とともに日本社会を支えてほしい。地域の構成員になってほしい。そのため、日本語教室事業は重要なウエイトを占めている。ただし、市が進める日本語教室は、N1、N2取得など個人の成果は目的ではない。

(羽間)

判定という言葉がなじめない。調査なのか？アンケートなのか？社会知識の周知度を測るにも、言葉がわからないと判定できないと思う。

(土井)

どこの国も同じ課題がある。オランダでは、社会に関する知識を測る30項目のテストがあり、これをクリアすると、筆記試験に合格したものとみなされる。言語は初級レベル。

(土井)

Cとして、関係づくりを入れてはどうか。

(羽間)

意欲が高まる。モチベーション。

(北村)

日本語教室は学習者とボランティアから成り立つ。ボランティアのモチベーションを上げることも重要。

(室長)

リタイア組の活動の場にもなっている。

(加藤)

親子で参加しているボランティアもいる。

(西川)

大学生も参加している。

(北村)

豊田市議会でボランティアの保険が議論されていた。ボランティアにも焦点が当たる。

(北村)

行政が求めるのは、学習者のみ。ボランティアの育成にも力を入れることが必要。

(浅野)

地域社会での対等な一員。オランダは移民施策を導入しており、強制的である。定住化が進んでいる。自治体が評価されながら、発展させていく。定量評価は無理。全体数は減っている。パイが決まっている中でどうするか。一番効果的なのは日本語教室。多文化の共生や交流の最前線。重点を置きたい。

(室長)

一世代かかってやっていくこと。日本人の満足度は日が当たる。

(土井)

教室がある地域とない地域の違い。教室が及ぼす地域への影響。豊田でアンケートが増えた。アンケートやインタビューでできるのでは。

(羽間)

火曜から日曜に変えたら、地域のイベントに参加できる。パネル等を出すことも考えている・

(西川)

力がある人が手助けしてくれた、防災訓練に外国人が誘ってくれた、と高齢者の日本人が言っていた。外国人が地域に住んでいることが、生活の一部になっている。菰野には、ボランティアを育成したのに、教室がない。

(土井)

教室を増やしていくことも必要。

(西川)

サロンやYICのように常時OPENしているところはいいが、決まった曜日や時間に実施している日本語教室への参加はボランティアに負担。

(土井)

豊田ではシステムができてから、200名増えた。負担が増えない方法を考える必要がある。

ボランティアにアンケートを行うのも一つ。

(西川)

教えられる（日本語の指導の）幅が広がった。子どもの学習、就労支援。

(土井)

興味、関心が高まった。Ex.ブラジルへの知識、サルサ、カポエイラ、家族旅行

(西川)

viva あみごでは、学習者が作った料理の持ち寄りなどで、文化の理解を深めている。ムスリム等。

(加藤)

人見知りを克服。

(羽間)

どうやって教えたらいいか。工夫できる。どうやって伝えたらいいか、が楽しい。新しい能力を増やせた。

(土井)

資格を生かせる。経験を生かせる。スキルアップ。資格をとる意欲。生涯学習。

(加藤)

年配の方のほうが長く続けてくれる。

(北村)

愛知県は、50代、60代、70代のボランティアが多く、若者は1割程度。

(土井)

ボランティアにはアンケートがいい。学習者は、日本語能力を測るものだが。

(室長)

相手のニーズに応じた柔軟さが必要。テキストに固執しない。

(土井)

教室を充実させていく必要がある。スキルアップや養成講座、ない地域に教室を作る。

(羽間)

要望を聞く項目も必要。

北村

ハンドブック 日本の教え方、教材 3 コミュニケーション力 4 多文化共生への理解。

(羽間)

選択肢にしばられない。

(土井)

教室外にいる人(学習者、支援者)に聞くことは? 料理教室、陶芸教室など、きっかけ。交流が生まれる。

(浅野)

市の判定は、年に1回を考えている。アンケートでニーズ、有効な手段を知りたい。各教室の色合いなども把握できる。

(浅野)

通訳行ったときに渡す。ガイドライン。日本語学習の啓発。

(土井)

日本語教室一覧へのアクセシビリティ。QRコード

(土井)

まとめ。項目のたたき台を作っていく。文化庁の項目には、来日して半年の人が対象のため、労働、子育てがない。住んでいる人対象なら重要な項目である。

まとめ：

優先順位として、①学習者の日本語能力、②学習者の社会知識、をまずやる。そのうえで、③学習者の居場所感、④ボランティアの指導力、⑤ボランティアの居場所感、⑥教室のある地域住民からの評価、等を検討する。

以上

第3回コアメンバー会議 会議録

日時：2014年12月24日（水）10：00～12：00

場所：四日市市役所本庁6階604会議室

出席：西川（共生サロン）、渡辺・羽間（くすのき）、加藤（YIC）、北村（名古屋大学）、廣田・浅野（四日市市）、岸・河村・土井（多文化共生リソースセンター東海）＊敬称略

1. 各種「評価ツール」等のご紹介

①よっかいち日本語レベルチェックシート「聞く・話す」（2013年度版）

②文化庁「カリキュラム案」

- ・★印が付いているものは、日本語で理解できていなくても母語で理解できていれば良い項目

- ・日本に来日して半年以内の方を想定した項目であるため、「最低限必要」の中には仕事と子育てが入っていない。

- ・これらの項目を参考に四日市市に必要なものを選択していくとよいのでは。

③文化庁「日本語能力評価」

- ・ポートフォリオ形式で、どこで何を勉強したのか、何ができるようになったのかを学習者が主体的に記録していくもの

- ・引っ越して別の地へ行った場合も、これまで何を勉強してきたのかを伝えることができる

④文化庁「指導力評価」

- ・ボランティア側の評価をするもの

- ・他者からの評価ではなく、自己評価として、自分の足りないところを探して今後の活動に生かしていく

⑤東京外国語大学「居場所感尺度」

- ・支援者用、学習者用の2種類がある

- ・④と同じく、自己評価として使用

- ・日本語教室だけでなく、日常生活の居場所感尺度も測るものもある

質疑応答：

(廣田)

文化庁のカリキュラムは、文法等の日本語学習と並行して行うものか、トピックとして扱うものか。

(土井)

並行して行うものではなく、項目にあがっているものができるようになることを目標に、文法等も織り交ぜながら学習していくという考え方。「文法ありき」の市販教材と異なる。

(北村)

文化庁はこれをもとに、各地域に合わせたものを選んで指導に反映してもらうことを想定している。

2. 「日本語能力・社会知識」評価項目について

(土井)

教室によって状況は異なるが、資料を参考に、四日市市で学習者が一年教室に通ったらこれができるようになるというものを作っていきたいと考えている。ひらがな、カタカナは学習することを前提として、これらをどう取り入れるか。ちなみに、各教室では、ひらがな、カタカナの学習はどうされているか。

(くすのき)

学習者による。文字を必ずしも覚えなければならない人でなければ学習しない。仕事等で必要な人には行う。

(サロン)

最初の頃は、ひらがな、カタカナが書けてから会話の練習にしていたが、それだと2年経っても会話に進めない人もいたので、今は並行して行っている。

(YIC)

ボランティアさんの考え方や、学習者さんのレベルによるが、主導権（決定権）

はボランティアさん側にある。

(廣田)

一年間通った人はひらがな、カタカナが書けるようになっているか。

(YIC)

書こうとすると間違えてしまったり、読むのがたどたどしかったり、人によって異なる。

(くすのき)

学習者の意欲によっても異なる。

(サロン)

そもそも覚えられない方は、(教室への) 定着率が悪い。

(廣田)

日本語は書けないが、会話だけできる人はいるか？

(くすのき)

いる。だが、「あいうえお」もできない人だと(会話も) 厳しい。

(YIC)

日常生活で使わないと忘れてしまって、翌週また同じことを繰り返しやるということもある。

(くすのき)

教室に来た限られた時間で文字学習だけに時間を割くのはもったいない。50音表だけ渡して「家で学習してきてね」と伝えて、他のことに時間を使う。最初の1, 2回は手順を示すために文字学習だけを行うこともある。

(くすのき)

ここでつくるもの(レベルチェックテスト)は、各教室で使用していくものな

のか。

(廣田)

一年に一回でもチェックできたらと考えている。

(くすのき)

来ている学習者の能力は教室が把握している。共通のものをつくる必要はあるのか。

(YIC)

評価システムと言ったが、その際には市から評価する人がくるのか。

(廣田)

そこまでは考えていない。

(土井)

現段階では、年に1回程度、大学入試のセンター試験のように市全体で日を決めて、希望者が参加する形での開催をイメージしている。もちろん、各教室でも適宜使っていただくことはかまわないが、その場合は各教室に応じた内容等を検討したほうがよいという意見がこれまでもあり、今後の検討課題となっている。テストを行う人も、今後養成していく予定。

(YIC)

一年に一回使用することに加えて、各教室でも活用していく可能性はある場合、ボランティアさんが評価項目を目にすることになる。評価項目を見て、ボランティアさんがこれをクリアしなければ評価項目は目標として捉えるものか、能力を確認するだけのものと判断するものか。どういう意図でチェックを行うかによって入れる項目が変わってくると思う。

(土井)

国に法制度がないので、文化庁のものは強制力がない。委託事業の場合は、市が委託先に「これに沿ってやってください」と言えばそうすることになるだろ

うが、現時点ではそのようになっていないので、これも強制力はない。今後、どうするかは市と現場の協議次第ではないか。

(YIC)

ボランティアに、その旨をしっかりと伝えないと誤解を招く可能性がある。

(土井)

その点も考慮して、今日はまず項目等について話し合いたい。

(廣田)

補助を出して教材等を買っていただいているので、市としては外国人の方にこれはできるようになってほしいという希望がある。市役所に来て、すべてに通訳が必要ということでは困る。ただし、今は基準に合致していないと補助を出さないというものではない。

(くすのき)

教室に来る目的は人によって異なるから難しいのでは？

(くすのき)

例えば、N2を合格したいという方には、合格できるサポートをする。合格したら教室としては目標達成。教室での学習目標と市の目標は異なるのでは？

(土井)

N2に合格したら誰にとってどんなメリットがあるのか

(くすのき)

本人。人によっては、会社から合格を必須条件として求められている人もいる。

(土井)

全員ではない。本来であれば、企業がやること。それをボランティアに任せて、そのために市が補助を出すということをして市の施策としてどう考えるか。

(くすのき)

来た人の目標を達成するのが、教室の最大の目標。市が補助を出すのは国が出さないから。

(YIC)

学習者とボランティアの意識がズレていることがある。市としてこういう日本語を教えてほしいという希望が聞けたのは嬉しいが、市の希望とボランティアの考えが合致しない場合に、ボランティアの負担にならないか心配。

(廣田)

外国の人が、日本社会で困らないようにしてほしい。

(YIC)

ボランティアの考えを統一することは不可能。ボランティアに教室の意義やシステムの運用目的を理解してもらわなければ難しい。

(土井)

第一義は学習者であって、ボランティアのためのものでないと考えている。

(廣田)

市として最低限の日本語を覚えてほしい。ますます多国籍化している。これまではポルトガル語やスペイン語の対応でなんとかなってきたが、今後はそういうわけにもいかない。市が外国人を集めて日本語学習をすることもできない。ボランティアに頼らざるを得ない。

(土井)

最低限の日本語をどう考えるか。N2に合格すれば、日常生活を困らず送れるのだろうか。

(廣田)

自分がスペイン語の試験を受けようと思った時に、笹川団地でブラジル人に日常生活の満足度を聞いたら、市に行けば通訳がいるし、病院には子どもを連れ

ていけば良いと言って満足していると回答が返ってきた。市が今後生活していくのに必要ことに関するセミナーをやると言ってもそういう方は来ない。需要と供給が合っていない。

(くすのき)

実際にはそういう方は日本語教室には来ていないのではないか。

(西川)

そういう方に来てもらえるようにしなければならない。一年に一回やっても、去年はいた人が今年はいないなど、うまく測れないのではないか。

(廣田)

文法はできるが、これはできないというものを確認したい。

(YIC)

できなかったとことをできるようにするのはボランティアに任されるのか。

(土井)

今年度の会議の中では、そこまでは話していないが、できていないことがわかった時に、それができるようになる必要があるかを個別に判断して、できなくてもよいことはそのまま、できる必要があることは文化庁のものを参考にしながら教えていくことは可能。

(YIC)

100 点を目指すチェックではないという認識でよいか。そこを明確にしておかないと。

(土井)

80 点でもその人が不自由なく生活していければよいが、項目によって、ここは誰しも 100%知っていてもらわないと困るものとそうでないものがある。例えば、災害時については皆に知っていてもらわないと困るが、引っ越しは皆に必要ではない。

(くすのき)

項目が細かすぎる。部分的にはすでに教室で行っていること。その時その時に対応している。

(くすのき)

例えば、市としての優先度があっても、ひらがなやカタカナを知らない人いきなり地震のことを教えるのは難しいのでは。カリキュラムががっちり決まると、既存のボランティアに対応できるかどうか。

(土井)

必ずしも全員のボランティアがやれる必要はない。

(YIC)

項目によってボランティアができるものとできないものがある。

(土井)

名古屋では、教室の最初に防災のことを3つ教えるという方法を取っているところもある。やり方は様々。重要だと考えられることから、年度内に項目を決めていきたい。必ずしも日本語力でなくても社会知識として知っていてほしいというものも挙げてほしい。文化庁の資料の中でこれは入れてほしいというものはあるか。

(くすのき)

★印はついていないが、子育ての項目は、子どもを学校に通わせている人には必要。

(YIC)

消費活動は必須ではないか。やらないと生きていけない。それ以外はなくても生きていける。公共交通機関は知っておくと社会に出やすい。

(廣田)

医療機関で治療を受けるのは大事。110番も覚えておく必要がある。

(YIC)

外国人にはアンケートは取っていないのか。こちらの基準で決めるしかないと思うが、自分たちの見えないところで学習者が困っていることがあるかもしれない。

(土井)

できるならやりたい。津市でやったときに、外国人にアンケートを取って、それをもとにカリキュラムを決めた。

(YIC)

日本人だけでない方がズレを防げる。

(西川)

必須ではないが、進学のことを知らない人が多いので、入れておいてほしい。

(土井)

本日出たものをもとに項目を作ってみる。それをたたき台にして意見を出してほしい。

(廣田)

住民としてのマナーを入れてほしい。住宅の窓からゴミを捨てる人がいて困る。ブラジルではゴミを集める仕事をする人がいるから捨てないと失礼。文化が異なる。

3. 「居場所感尺度」について

(北村)

一枚目のものと三枚目のものを同時にやってもらう。日本語教室に関するアンケートと日常生活に関するアンケートがある。同じ内容のものを学習者さんとボランティアさんにやってもらう。教室を中心にそこに来ている人とどのような関係をつくっているか、日常生活で周りの人とどのように関係をつくっているかを測り、図形の大きさに判断する。個人での判断をしてしまうと、その日

の気分等で結果が異なってきてしまうので、ある程度に人数の人を対象にして
行い、平均化して、足りない部分を補って居場所感を高めていく。

(くすのき)

質問が多すぎて、実施がづらい。

(北村)

時間にすると 15 分くらい。

(くすのき)

ネガティブな質問が多いので、やっているうちに寂しくなっていく。

(北村)

一応、ポジティブな質問の量を多くしているが、ネガティブなものは自分も言葉が鮮烈なものもあると感じる。

(くすのき)

自分としてはネガティブなものはアンケートにはいらないと思う。研究者の立場ではよいが、アンケートをされる立場としては意味がないと感じる。アンケートの目的が研究目的ならよいが、教室活動のためなら正しい結果が導き出せないと思う。アンケートをするのは緊張感を伴うので、いつものリラックス状態では回答できない。

(YIC)

「できる」の本人の捉え方で答えが変わってしまう可能性があると思う。そこに不安が残る。

(土井)

みなさんのご意見の中で、日本語教室に来る目的が日本語学習だけではないというご意見があったので、今日ご紹介させていただいた。

(くすのき)

教室のいいところを数値的にも出して行政に役立ててもらおうためのアンケートを想定していた。

(くすのき)

受講者もボランティアも継続して来ていることが楽しく参加しているということではないか。

(浅野)

各教室に独自性があると思う。各教室にはメリット・デメリットがある。デメリットを知ってそれが補えれば良いと思う。

(北村)

記述式のアンケートをすると、マイナスの意見は具体的に出てくる。

(くすのき)

項目にすると解釈の違いが出てきてしまうので、改善点は記述式の方が良い。

(北村)

複数の教室で行うと、教室の特徴が出てくる。

4. 今後の予定

- ・仮の項目をつくり、皆さんにお知らせする。意見を出してほしい。
- ・年度内にあと1回、会議を予定。日程は、次回ネットワーク会議後となる。

以上

第4回コアメンバー会議 会議録

日時：平成27年3月10日 10:00～12:00

場所：四日市総合会館

出席：西川（共生サロン）、加藤（くすのき）、松田・田（YIC）、北村（名古屋大学）、廣田・浅野・市川（四日市市）、岸・土井（多文化共生リソースセンター東海）＊敬称略

1. よっかいち日本語レベルチェックシート（2014年度版）

①日本語力「聞く・話す」

（土井）

言えるけどたまたま言わなかった表現は測れない。それはテストの限界。

（北村）

表出された回答だけでなく、うなずきや反応も評価に加える。

（土井）

受験者のできること、できていないところをフィードバックすることが重要。

（廣田）

市としては多文化共生を目指す。日本人とのコミュニケーション促進ツールとして利用したい。

（北村）

ロールプレイにする意義は全体的なコミュニケーションを測る。

（土井）

テストの研修は必要。

②日本語力「読む・書く」

（土井）

学習者が文字を書く必要性のある場面は、主に名前と住所＋数字で年齢や生年

月日。

(加藤)

見ながら書いてもいいか。

(土井)

教室の方針で。日本語教室に通っているのに名前や住所も書けないととらえるのか。

(北村)

豊田では、写すことも能力の一つという意見もあり、ただ写すものの有無や質によって変わるので、見ないで書くことにしている。

(土井)

和暦がわかっているかどうかを測る。だから教えたほうが良いというものではない。教えるかどうかは各自、各教室の判断。質問文は母語で。言語は、四日市に住む上位5カ国ぐらいに対応したい。日本語と併記が良いのか。テストは数種類(数パターン)作る必要あり。語彙テストと文字テストの評価の重みをどうするか。テストが能力試験のどのレベルの語彙にあたるのか知っておく。

③社会知識

(西川)

質問が細かすぎるとテストが正答を判断しにくい。

(土井)

仮のゴミ捨てルールなどを用意するか。そうすると日本語能力を図るものになってしまう。社会知識6「子育て」は該当者のみ。学習者とボランティアの居場所感や満足度については別の機会に。

2. 今後の予定

(廣田)

今年度はここまで。来年度も事業あり

(浅野)

来年度の具体的なタイムスケジュールはまだ作れていない。

(加藤)

次の会議までにしなければならないことを挙げてほしい。テスターは無償か？フィードバックが大変、負担が大きい。

(浅野)

検討中。

(土井)

点数化、ランク付けしたほうがいいのか。本人も第3者も点数やランクを必要としているか。

(北村)

コメント記入は大変。

(加藤)

市として最低限知ってほしいことが「社会知識」に含まれているのか。

(廣田)

市からの意見と現場からの声を合わせる。

(土井)

ヨーロッパでは外国人住民の人権を守ることが重視された。守ってほしいことばかりでなく、本人が知っていると得するようなことも。

(加藤)

「社会知識」の設問の表現に工夫をすれば楽しくテストできるかも。会議録をA

4の1枚程度で、進捗状況がまとまっているとボランティアの誰が見てもわかりやすい。テストの結果をまとめて公開するのか。

(廣田)

公表しない。受験者にフィードバックするのみ。

(加藤)

テスト実施にはマンパワーがいることではないか。

(土井)

各教室でテストを実施するのではなく、一斉に行う。豊田市では、1回の試験に20名ほど受験し、スタッフ(テスター)は5名程度。

(加藤)

市が主体なのか。

(廣田)

市が主体で実施する。必要であれば各教室でも。

(西川)

第一回はどのようにするつもりか？

(土井)

1,2つの教室で試験的に行ってから一斉テストを。

(加藤)

学習者にテストの意義をどのように説明するか。くすのきでは研修生が多く、1年続けている人は少ない。能力試験の合格を目指す人が多いので、本テストは動機付けになりにくい。本テストはできること、できないことを学習者が自覚するフィードバックが大切。市役所から認定証のようなもの(バッジ)があればいいのでは。

(土井)

豊田市は市章が入った認定証を交付している。受けるメリットは本人が自覚するもの。加えて、周りの環境も大切。豊田市の場合は会社が受験を促している。

(田)

日常生活に困っていない生活者は逆に試験を受けないのでは。

(北村)

豊田市の受験者は、①日本語教室にかつて通った人（生活者が多い）、②現在通っている人（技能実習生が多い）の2タイプ。技能実習生は、日本語能力試験合格を目指しているが、「書く＋話す」の技能を測りたいと思っている。

3. まとめ

これまでの議論をもとに、年度内に報告書をまとめる。本会議およびネットワーク会議で出された意見は、来年度以降も検討事項として継続審議していく予定。

以上

第1回日本語教室ネットワーク会議 会議録

日時：平成26年9月30日（水）18:00～20:00

場所：四日市市総合会館7階第2研修室

出席：柴田・加藤（Y）（四日市国際交流センター）、西川（四日市多文化共生サロン）、渡辺・加藤（K）・羽間（くすのき日本語教室）、早野（viva あみーご）、廣田・浅野・市川（四日市市）、土井（多文化共生リソースセンター東海）＊敬称略

1. 主催者あいさつ

（廣田）

多文化共生社会を推進するためには、外国人市民の日本語習得は不可欠。そのための鍵となる重要な事業が日本語教室。各日本語教室の個性は大切にしながら、ネットワークとして横の連携をはかっていきたい。

2. 参加者自己紹介

省略

3. 事業概要説明

（浅野）

平成22年に策定した多文化共生推進プランに基づき、取り組みを進めている。3つの課題の中にコミュニケーションがあり、日本語教室の開催も取り組みの一つ。

今年度から日本語学習支援のしくみを検討。とよた日本語学習支援システムや横浜、浜松、文化庁など様々なしくみづくりが進められている中で、四日市の現状にあわせたものを作成したい。社会統合、外国人市民も対等な構成員であるとの視点を重視。日本語学習支援事業の一環として、今年度は各教室によるネットワーク会議及びコアメンバー会議を実施し、様々な意見をいただきたい。月に1回程度の開催を予定しており、1回1団体につき、交通費程度の謝金2,000円を準備する。すでに、コーディネーター（岸さん）が現場把握のため、各教室を回っている。

この日本語学習支援は、多文化共生リソースセンター東海に委託し、3年かけて事業を進める予定。（昨年研修で作成した）レベルチェックシートをさらに改善して、年1回程度、市内の学習者の現状把握を行い、今後の施策に活かしていくためのツールにしたいと考えている。

（土井）

過去3年、四日市市の研修を担当した実績があるとともに、とよた日本語学習支援システムの立ち上げを担当。現場の意見を聴きながら、事業に反映していく。様々な立場でのギャップを認識するため、色々な声を聞きたい

コアメンバー会議は、様々な情報を集めてきて、作業を進める場。

ネットワーク会議は、代表に限らず誰でも参加できる場。メンバーがその都度変わっても OK、継続して議論するものではない。

4. 情報共有

①教室の設立経緯と活動目的、②学習者の状況、③ボランティアの状況

(渡辺)

①きんせいホームで国際交流事業としてスタート（約25年前）。単発の講座だったが、ボランティアで継続。参加者は主に南米出身者で、毎週20～30人と多かった。施設の性格上、参加者に年齢制限や四日市に在住、在勤、外国人登録証の提出など条件が厳しかったため、ボランティアで日本語教室を立ち上げ（約10年前）、場所をなやプラザに移した。教室は、コミュニケーションの上に成り立っている。目的別、レベル別にグループ分けしているが、教室全体を見渡せるようにしている。

②学習者は、毎回15名くらい。国籍は、南米2、3人で、ベトナム、インドネシアなどの実習生が多い。主に20代。目的は、昇給にかかわる検定対策やおしゃべりなどの交流。YICや日本語サークルなどと掛け持ちしている人もいる。

③ボランティアは、毎回6人くらい。グループ学習。2人は現役の日本語教師。あと2人が研修や講座などに参加した有資格者である。

(羽間)

③自身は、資格を生かしたいから。他に外国人に日本語を教えたいという人もいる。

(西川)

①自身が携わって3年目。サロンの設立は平成16年10月、平成25年度まで指定管理。

目的は、外国人市民が地域で暮らしていくために必要なコミュニケーションがとれるようになること。

②学習者の条件は、在住もしくは在勤、年齢制限なし。前月は170クラス実施。1クラスつき、1人や複数もある。実人数は30人くらい（1か月につき）。主に南米出身者。他に中国、タイ、パキスタン、ベトナム、ロシアなど。毎日参加している人の目的は就業。他に日本語のスキルアップ、生活（こどものお便りを読むため）、日本語を忘れないためのおしゃべりなど。

③ボランティアは約30人。多いのはリタイア組（60代～）。日曜のボランティアは30代が多く。有資格者は2人くらい。

(早野)

①目的は、地域で暮らす市民の日本語能力向上と顔の見える関係づくり、笹川を住みやすいまちに。

②学習者は、去年の8月までは多くて8人、9月以降は10人～15人に増え、現在まで続いている。国籍は南米出身者がほとんど。モルモン教の宣教師2～4人と1月からベトナム人実習生が加わった。4月から小中学生も参加。定着率高い。学習者の目的は、宿題（子ども）であったり、皆に会いたいからなど目的はバラバラ。

③ボランティアはほとんど男性。リタイア組。平均12、3人参加、全体で20名。地域の活動にかかわっている人が多いことから、地域づくりに対する意識が高い。

（加藤（Y））

①現在の（ボランティアが主となった）日本語教室の形は1998年スタート。マンツーマン形式。目的は、地域に暮らす人が日本語で生活していけるように。

②学習者の条件として、N1取得者は参加不可。N2はグループ教室（日曜）しか参加できない。ベトナム、カンボジア、インドネシア、中国（日本人の配偶者）、ネパール、フィリピンなど。8月の実績は、延べ100人。

③ボランティアは、シニア、主婦、学生など。150～160人登録、実際の活動者は120～130人。有資格者は約10人、大半は資格なし。教員免許を持っている人が多い。

5. 意見交換

（加藤（K））

マンツーマンの形は崩さないのか。

（加藤（Y））

日曜希望の学習者が多く、約20人が待機。ボランティアが不足していることからグループ学習も考えなければならない。グループを勧めてはみるが、本人たちは嫌がる。日曜はYICとくすのきをかけもちしている人も多い。

（渡辺）

グループをとりまとめる人は？

（加藤（Y））

カルテを提出してもらい、職員が確認している。マッチングがうまくいってないところは職員が調整する。

（加藤（Y））

学習者の制限は特にないが、短期滞在者の学習は認めない。VISAを確認し、半年以上続けられることが前提。

(浅野)

サロンの日本語教室は市の委託事業である。学習者は日本語を第一言語としない人、かつ、サロンの設立目的が地域づくりであることから、地域住民を対象としている。

(渡辺)

桑名、鈴鹿など市外からの学習者がいる。

(土井)

活動の成果は？

(加藤 (Y))

1か月前、N2合格者が2～3人いた。マンツーマンを卒業することになるが、ペア解消を残念がる様子は、ペアがうまくいっていた証拠でもある。

(早野)

小学生低学年とシニアのペアは世代間を超えた交流に繋がり、相互作用をもたらす。

(西川)

N1～N4に10名合格した。初級レベルだった学習者が履歴書を作成できるまでになった。

(渡辺)

親子3代の女性がボランティアに参加している。昨年、お楽しみ会で学習者、ボランティアそれぞれが特技披露。意外な一面を発見。

(羽間)

くすのき日本語教室は仲が良い。学習者が作ったレシピで料理教室を開催した。

(土井)

教室の課題は？

(加藤 (Y))

学習者に対しては、身分証の提示を求めるのに、ボランティアの身分証は確認しない。ボランティアの動機や資質はどうか。

(羽間)

ハローワークで勤めていたときは、公務員であっても在留カードを確認できなかった。実際、身分証の確認まで求めるのか。桑名では不法滞在であっても、日本語学習を必

要とすれば受け入れた。

(加藤 (Y))

明確なラインを引くのは難しい。面談の上、ボランティアに不安がある場合は、登録だけしてもらいマッチングしないようにしている。学習者の安全面を考えなければならない。

(渡辺)

過去に第一印象がよくない人がいた (2名くらい)。見学⇒面談の上、継続しにくい雰囲気を作った。

(早野)

教室を全体的に見ることができる。言える雰囲気づくり。ボランティアが変わってきた。笑顔が増えた。

(西川)

過去に2人ぐらいいた。マッチングから外すようにする。電話番号の交換は怖いと思う。

(浅野)

マンツーマンのメリットもあるが、ある学習者から、ボランティアの中には日本語を教えることよりも、自分が英語を話したいという目的の人もいると聞いた。

(加藤 (Y))

ボランティア活動の心構えなどが必要。研修など。

(土井)

アフターフォローが必要。他のボランティアが声をかけることも大事。定期的に意識を確認する機会やマナーチェックなど。

(柴田)

研修に参加する人は限られる。

(土井)

ボランティアの募集は？

(加藤 (Y))

広報やホームページ、新聞、フリーペーパーを利用している。先日、三重県内の大学に募集を出した。

(早野)

三重県だけなのか。名古屋の大学の日本語学科の学生に興味がある人がいる。

(西川)

募集したときに一気に増えても、待ってもらうことになる。足りないときは、他の曜日担当の人をお願いします。シニアは柔軟な対応が可。

(早野)

現在はボランティアのほうが多いくらいなので、積極的に募集していない。

(加藤(Y))

部屋の問題もある。

(加藤 (Y))

広報に募集記事が載ると反応が多い。が、長続きしない。

(浅野)

過去に養成講座をしても、定着しない。既存の教室の魅力を伝えたい。

(加藤(Y))

シニア・主婦・学生 それぞれに違ったアプローチしたい。

6. まとめ

(土井)

ネットワーク会議では、今後も人を入れ替えながら同様に、各自の認識のもとに成果や課題、今後の取り組みに関するアイデアなどを共有していきたい。

後日、本日の議事録と次回の日程調整についてメールする。会議の場でなくとも、ご意見・ご質問などあればいつでもメールや電話でお寄せいただきたい。

また、今後もコーディネーターの岸が各教室にお邪魔することがあると思うが、そのときは可能な範囲での受入れをお願いしたい。

以上

第2回日本語教室ネットワーク会議 会議録

日時：平成26年11月21日（金）18:00～20:00

場所：四日市市中部地区市民センター 3階美術室

出席：柴田・松田・ディオソ（四日市国際交流センター）、西川（四日市多文化共生サロン）、村合（viva あみーご）、斎藤（日本語茶屋）、廣田・浅野・市川（四日市市）、土井（多文化共生リソースセンター東海）＊敬称略

1. 主催者あいさつ

省略

2. 参加者自己紹介

省略

3. 事業概要説明

省略（第1回と同様）

4. 情報共有

◆日本語茶屋

①活動目的・経緯

- ・知り合ったネパール人に頼まれて教え始めた。
- ・現在、月曜日から日曜日まで毎日開催している。
- ・場所は、この（中部地区市民センター）近くの消防署の裏手。
- ・トラブル防止（抑止）のために、防犯カメラを設置している。

②学習者の状況

- ・ネパール人50名（市内のネパール国籍者は全部で200名）、ベトナム人25名。
- ・労働者と学生。
- ・アルバイトに必要な言葉を覚えたい人が多い。
- ・代表者がオーナーであるマンションに住まわせている（安くてシェア可能）。

③ボランティアの状況

- ・6名のうち、2名を有給・常勤として雇用。（帰国子女）
- ・全員、ボランティア保険に加入。
- ・新聞広告とCTY（CATV）で募集した。
- ・だいたい、1人のボランティアが10人前後を担当（グループレッスン）。

＊その他

- ・来年3月までに日本語学校をもちたい（既存の学校より安く通えるように）

5. 意見交換

（viva あみーご）

- ・学習者の参加が継続されない。学習者自身もボランティアも、どのように目標設定をすればよいか？

→「会話」「漢字」など、新規受付時に聞き取る学習目標が抽象的すぎるので、もっと具体的に聞けるようにしたほうがいい。また、客観的にも、本人に必要とされる日本語力を確認できるような「日本語レベルチェックシート」にしていきたい。

（YIC）

- ・ボランティア不足。大学生にも声かけをしているが、マンツーマン形式のため継続参加がハードルになっていてなかなか集まらない。現状、1対多での対応も試みている。

・市の広報は効果が高かったなので、今後もお願いしたい。

→どの時期にボランティアが不足するかを確認して、その時期に合わせて広報したほうがよいかもかもしれない（例：7,12月の日本語能力試験前に学習者が増えるなら、その1ヶ月前の広報に乗せるため、2ヶ月前に募集情報を市に伝える）

（YIC）

- ・会場が狭く、新規学習者の受け入れを断る状態にある。また、隣のペアの声が聞こえて、聴解練習がやりにくい。

→①日本語教室を市からの委託事業に変えて市の事業として会場を確保する、②補助費を増額し会場確保をしやすくする、③学習者からの受講料で新しい会場でも自主運営できるようにする、等の方策を検討する。

（共生サロン）

- ・市販教材の適切・効果的な活用方法について。

→年明けに開催予定の「平成26年度日本語ボランティア研修」で取り上げる予定。

（日本語茶屋）

- ・来日・転入直後の人への生活情報提供を充実させたい。

→現状、希望者のみに市の窓口で『生活ガイドブック』（英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・ルビ付日本語）を配布している。また、市庁舎1階で「生活オリエンテーション」（ポルトガル語・日本語）を行っている。

→冊子の配布だけでは理解されない。講習の開催などを検討してはどうか。

→市内の日本語教室に配布し、希望者に手渡せるようにしてはどうか。

6. その他情報提供等

(viva あみーご)

・12月7日(日) 15:00～、ふれあいサロンわかさで「世界の料理」というイベントを開催予定。参加費 1,500 円

7. 今後の予定

・第3回日本語教室ネットワーク会議を2015年1月に開催予定。後日、メールで日程調整。

・今後も、コーディネーターの岸さんが各教室を訪問。

・平成26年度日本語ボランティア研修は、詳細が決まり次第連絡。

以上

第3回日本語教室ネットワーク会議 会議録

日時：平成27年1月27日（火）16:00～18:00

場所：四日市市役所 604 会議室

出席：西川・坂倉・（共生サロン）、加藤（YIC）、斎藤・坪井（日本語茶屋）、喜屋武（viva あみーご）、北村（名古屋大学）、廣田・浅野・市川（四日市市）、土井・岸（多文化共生リソースセンター東海）＊敬称略

1. 主催者挨拶

省略

2. 参加者自己紹介

省略

3. 事業概要説明（再）

- ・実施に至った背景
- ・全体の事業概要（目的、内容、イメージ等）
- ・今年度の具体的な事業内容
 - ① ネットワーク会議の開催
 - ② コアメンバー会議の開催
 - ③ 日本語レベルチェックシートの作成
 - ④ ①～③を行ううえで、各教室への見学や必要に応じた情報提供等を行う

4. これまでの論点

- ・活動形式（マンツーマン or グループ）
- ・コーディネート（学習者とボランティアのマッチング等）
- ・学習者の受入条件（学習目的、日本語レベル、在留資格等）
- ・活動の成果（日本語能力試験合格、就労等）
- ・ボランティア対応
- ・ボランティア人材確保
- ・学習者の継続率
- ・会場確保
- ・市販教材の適切・効果的な活用方法
- ・生活情報の提供

5. 本日の議論

◎学習者の「〇〇さんがいい」への対応

- ・ローテーションにする
- ・なるべく、いろいろな人に教わるようにする
- ・定期的に相手の様子を聞く（お互いに）
- ・ペアを固定しないようにする
- ・改善点があればボランティア本人に伝える

◎ボランティアに「もう来ないでください」と伝えたことはあるか？

- ・学習者がボランティア／クラスを選んでいるので、合わない人のところには学習者がつかず、ボランティアが自然とやめていく。
- ・活動趣旨に合わなければ、代表者からやめてくれるように伝える。
- ・ボランティア全体に向けて注意事項（会則）を文章で伝えた。
- ・合わない人には学習者を紹介しない。
- ・教室の中で起こったことの責任の所在はどこに？

◎ペアでの学習の場合、席は隣か、対面か？

- ・基本は対面だが、ペアに任せる。
- ・そのときどきで変わることも。

◎全教室から参加できるイベントがあるといい。

- ・例えば、スピーチコンテストや書道等。
- ・市で会場確保、運営は各教室のボランティアが共同で行うなど。

◎ボランティアのスキルアップ方法は？

- ・内部研修は特になし。外部研修を紹介している。
- ・特にボランティアが必要を感じていない。各自で勉強している。
- ・年に1回程度、内部研修を行っている。外部研修も紹介している。
- ・他団体と共催したり、市が主催する研修に参加したりしている。
- ・身近なところに相談できる人がいるといい。
- ・市レベルのコーディネーターがいるといい。

◎ボランティア養成講座を開き、市が修了認定を行ってはどうか。

- ・平成 22 年ごろまで市が養成講座を開催していた（2 時間×10 回程度）。延べ数百人が修了。実際に活動を始めてからの困りごとが多く、スキルアップ研修へと移行した。
- ・再開を希望する。

◎学習者側にも教室参加の心構えが必要では？

- ・無断欠席が多く困る。
- ・受講料を払ってもらいと、休みが減る。
- ・初回参加時に注意事項を説明している。ドタキャンの場合はキャンセル料をとっている。

◎外国人のための市内バスツアー等がやれないか？

- ・市民向けのツアーへの参加を促す。

6. 今後の予定

- ・平成 26 年度日本語ボランティア研修 (1/31)
- ・教室見学 (コーディネーター) 継続

以上

1) 多文化共生サロン

1. 新規学習者対応

- 基本的に日本語学習希望者は誰でも受け入れる。新規の学習希望者が来た場合、本人が登録用紙（ポルトガル語およびスペイン語訳付）に記入する。登録用紙は、氏名、住所、電話番号等の個人情報および、日本語学習歴や日本語能力、学習目的についての選択肢式アンケートに答えるようになっている。
- アンケートと共に、インタビューとひらがな・カタカナのテストも実施。インタビューは、日本語教室コーディネーターの西川さんか日系ブラジル人で日本語とポルトガル語で対応できる職員のパウラさんが行う。
- 上記のようにして日本語能力のレベルを判定した上で、教室に来る日を予約する。ただし、日曜日にしか来られないなど事情のある場合、当日の教室に参加してもらうこともある。

2. 学習者

- 学習者は入館時に 100 円支払い、ノートに名前を書く。
- ブラジル、ペルーを中心としたポルトガル語、スペイン語母語話者が多い。現在ロシアの方もいる。
- 入れ替わりが激しく、続かない人も多い。これまでの学習者数は 800 名以上。
- 今年 6 月の学習日は 23 日。177 回の授業を実施し、学習した実人数は 34 人。

3. ボランティア

- 現在登録しているボランティアの人数は約 30 名。謝金として 1 回につき 400 円支払われる。ちなみに、隣で開かれている笹川こども教室でのボランティアへの謝金は 1,000 円。
- ボランティアの質にばらつきあり。学習者に親身になって寄り添えるボランティアが学習者に人気。
- ボランティア研修は行っていない。日本語講師の資格を持っている西川さんが適宜助言している。他の日本語教室の見学をしたり、他の教室から見学者が来たりすることはこれまでないが、他教室と掛け持ちしてボランティアをしている方もいる。
- ボランティアにも BBQ パーティーなどの行事に参加してもらうことで交流を図っている。

4. 日本語学習

- 基本的には学習者 1 人に対しボランティア 1 人のマンツーマン形式で、1 時間半の

学習。指導はボランティアさんが中心となり、西川さんは必要に応じて指導に入る。

1日の学習者数は、午前と午後合わせて平均7名前後。

- ・教材は主に『にほんご45じかん』（専門教育出版）や『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）等を使用。
- ・学習後には担当したボランティアさんが、「学習記録」用紙に使用教材や指導内容、次回へのポイントや感想を記入し、学習者一人一人に作られたファイルに保管する。
- ・学習者は「授業予約表」に記入し、次回の予約をする。「授業予約表」は漢字、ルビ付き、ポルトガル語の3種類。

5. 生活相談・情報提供

- ・地域のイベント等案内あり。
- ・常駐しているポルトガル語相談員が、各種相談に対応。
- ・ここで自治会加入が可能。

6. 関係者からの意見等

- ・レベルチェックをするなら、日本語能力の4技能に加え、社会性も含めた指標があればよい。その際、「J-TEST」のようなレーダーチャートで視覚化されていると、現時点でできることや足りないことを学習者自身が確認しやすい。
- ・学習者から集める100円は市の収入となり、サロンで自由に使えるわけではない。教材を入手するにも3週間かかった。

【ポイント】

- ・西川さんは日本語教師の資格があり、長い指導経験があるため、ボランティアも安心して参加できているようだ。
- ・地域柄、ブラジルやペルー出身の学習者が多いため、ポルトガル語とスペイン語ができる職員の役割は大きい。

【課題】

- ・行政の委託によって行われており、職員が配置され、理想的な形で日本語教室が開かれている。サロンの中心的役割を担っている西川さんの存在が大きいため、彼女が欠けた場合に補完できる人材がいなかったことが問題か。
- ・ポルトガル語、スペイン語話者のための教材は充実しているが、それ以外の言語で対応しなければならないときに困ることがあるかもしれない。

以上

2) YIC 日本語サークル

1. 新規学習者対応

- ・「公益財団法人四日市市文化まちづくり財団」の職員である加藤さんが対応。加藤さん不在時は他の職員 3 名が対応。学習希望者には「日本語サークルのきまり（ルール）」（各国語あり）を渡し、それに基づいて、学習者としての条件確認、受講の仕方等について説明する。条件に合えば、学習希望者は「日本語サークル依頼書」に、学習目的や学習希望日時などを記入。その後、加藤さんがインタビュー実施
- ・依頼書やインタビューをもとに、加藤さんがペアを組むボランティアを検討し、ボランティアへ声掛け。
- ・年明けから、担当者が加藤さんから松田さんに交替。

2. 学習者

- ・観光ビザなどの短期滞在者は受講できない。登録時にビザの残存有効期限が 6 か月以上であることが条件。
- ・日本語能力試験 N1 保持者は受講できない。N2 保持者はグループ学習のみ可能。
- ・現在継続的に学習しているのは 120 名ほどで多国籍。
- ・日曜日が、一番受講者が多い。
- ・木曜日は託児があるため、小さい子供連れの母親の学習者が多い。
- ・ベトナム、インドネシアからの研修生が増加。

3. ボランティア

- ・100 名ほど活動。
- ・見学日は年配の男性が多かった。
- ・くすのき日本語教室と掛け持ちする人もいる。
- ・内部でのボランティア研修会を年に 2,3 回。

4. 日本語学習

- ・固定ペアのマンツーマン指導。職員によってペアが決められると、学習者とボランティアで学習する日時を設定。
- ・学習者は 100 円／回を支払う。または、500 円、1,000 円のプリペイドカードでの支払いも可能。前者は 6 回、後者は 12 回学習できる。
- ・1 週間に 1 回、1 時間～1 時間半で学習。
- ・会場に来たら、学習者は受講カードを事務所受付の箱に入れる。大講座室には最大 8 組が学習でき、小講座室には 6 組、それでも足りないときは総合会館を借りる。
- ・学習内容はペアで相談して決める。教材は Y I C にあるものを使用することができる。貸出はしていないが、コピーは 1 枚 10 円で可能。
- ・大講座室は各ペアにホワイトボードあり。

- ・学習が終わるとボランティアは「日本語サークル活動記録」に活動内容と事務所への連絡事項を記入。記録用紙は事務所の「YIC 日本語サークルカルテ」（個人ファイル）に保管される。
- ・学習者は受付から受講カードを回収。
- ・毎回の学習日時はペアで決め、欠席や遅刻の場合はボランティアに学習者が直接電話連絡する。そのため番号を交換しておく。遅刻や変更の場合は、学習者が YIC にも連絡する。
- ・基本的に、加藤さんは日本語指導に入らない。

5. 生活相談・情報提供

- ・YIC が同じフロアで無料の法律相談、行政相談、生活相談に対応。
- ・掲示板に各種イベントの案内や地域情報などのお知らせあり。

6. 関係者からの意見等

- ・ボランティア研修を行いたいとは思っているが、ボランティアが参加しやすい日曜日にも教室が開かれているため、実施には至っていない。

7. その他

- ・木曜日に託児付日本語サークルあり。
- ・年度末に日本語発表会を実施。

【ポイント】

- ・運営システムが構築されている。
- ・専属のコーディネーターが配置されているので、運営がしっかりしている。またコーディネーター以外の職員も新規学習者受け入れの対応ができる。
- ・月曜日以外は 9 時～17 時まで開かれているので、学習者もボランティアも参加しやすい。
- ・イベントも多く、また様々な情報が得られるので、来るとお得感がある
- ・教材や教具がそろっていて、学習環境に恵まれている。
- ・予約制で、毎回ペアが同じなので、ボランティアとしては心にゆとりをもって臨める。

【課題】

- ・ボランティアより学習希望者が多いため、待機状態の人がいる。
- ・日曜日に学習が集中し混雑する。日曜日に新規学習者が来た場合の対応が大変。
- ・ボランティアの質にばらつきあり。質を向上させる研修等はない。
- ・ペアが固定されているので、ボランティアとの相性やボランティアの質が学習者のモチベーションに大きく関与する。

- 初級学習者に小学校1年生の教科書を使用して指導しているボランティアがいた。
“説明の説明”になっていて、難しそうだった。学習内容や教材はボランティアや学習者に任せるとしても、スタッフが様子を見ながら適宜アドバイス等をする事ができればよい。

以上

3) viva あみーご

1. 新規学習者対応

- ・学習希望者は誰でも受け入れ、教室に来た当日から学習が開始できる。
- ・学習希望者は初回に「受講者フェイスシート」に個人データを記入し、勉強したいことと学習目的についての質問にチェックする。裏面はインタビューシートになっており、4名のコーディネーター（坂倉さん、喜屋武さん、西野さん、中西さん）またはサポーター（ボランティア）がインタビューをして理解度や達成度をチェックする。インタビューシートは viva あみーごのオリジナル。日系ペルー人の喜屋武さんがポルトガル語、スペイン語に対応できる。

2. 学習者

- ・ブラジル、ペルーをはじめとする南米出身の方を中心に、アメリカ、フィリピン、ベトナムなど多国籍。最近は技能実習生もいる。
- ・子どもを連れて来てもかまわない。
- ・学習者の7～8割は笹川団地に居住。
- ・見学日には10名の学習者。平均12～13名。徐々に学習者が増えていて、継続的に参加する学習者も増えている。
- ・2回目の巡回日(3/10)は雪のためか学習者は5名といつもより少なめ。
- ・高校入試を控えた学習者もいる（試験日前日）。試験対策の勉強もいる。

3. ボランティア

- ・30名程度登録していて、各回12,13名のボランティアが参加。学習者よりボランティアの方が多く来ることが多い。謝金は1回につき500円。
- ・年配男性が多い。
- ・当日は欠席されていたが、コーディネーターの中西さんは日本語教師の有資格者であり、指導に関して助言を受けられる。また、多文化共生サロンの西川さんも2か月に1回は訪問するので、彼女に尋ねることもできる。
- ・多文化共生サロンとかけもちでボランティアをしている方は現在3名。

4. 日本語学習

- ・火曜日に学校の視聴覚室を無料で借りて開かれている。教材や教具は教室に保管できるが、個人記録用紙等の書類は喜屋武さんが持ち帰る。
- ・参加費無料。
- ・教室に入ったら、コーディネーターに各自の出席カードに押印してもらう。5回出席ごとに小さいプレゼントがもらえる。
- ・最初の15分は、全体で輪になり、その日のテーマについて学習者が日本語で一言話す時間となっている。この日のテーマは「好きな場所」。一言発表だけでなく、

お国紹介をしたり、炭坑節を踊ったり、歌を歌ったりなど。

- ・その後、個別学習、グループ学習になる。ボランティアと学習者のマッチングは、当日の参加者を見て、コーディネーターが決める。1対1、2対1、1対2であったり、ときには会話グループを作ることも。見学日当日は6つのテーブルに分かれた。
- ・教材は学習者が持参していればそれを使用し、なければボランティア所有のものや、viva あみーご所有のもの使用する。
- ・基本的にコーディネーターは指導に入らないが、必要に応じて加わる。喜屋武さんは母語での説明ができるので指導に入ることが多い。
- ・最後にボランティアが「学習記録」用紙に記入する。学習者は「次回の予約表」に記入する。
- ・マッチングは基本的に固定。主要メンバーの意見やボランティア、学習者からの声をもとに2か月に1回程度変える。

5. 生活相談・情報提供

- ・地域のイベント等案内あり。
- ・ポルトガル語とスペイン語ができるコーディネーター（生活相談員）が各種相談に対応。

6. 関係者からの意見等

- ・新規学習者にはインタビューシートが使いにくい。一つの設問に2問入っていたりするので、改善の必要がある。また、インタビューをしても、その結果からどのような指導をしたらいいのかわからない。
- ・「ゆるやかで和やかな教室」ではあるが、楽しいことだけでは学習者は続かない。日本語の学習がきちんとできなければ継続的に参加しない。

7. その他

- ・facebook ページあり（非公開）
- ・料理教室やBBQなど各種イベントも実施
- ・笹川団地に住むポルトガル語、スペイン語母語話者と日本人が作った団体 “Avante Sasagawa” の中心メンバーが学習者として参加していて、地域活動の呼びかけや情報提供をしている。
- ・高校入試を直前に控えた学習者がおり、教科学習の指導も求められる。どこまで入試に関わっているのかたずねることができなかったが、進路指導も行うのであれば、情報収集や知識が必要となる。

【ポイント】

- ・四日市市の委託であり、コーディネーターがつき、運営がしっかり行われている。
- ・多文化共生サロンとは物理的に近く、関係性も強いため、様々な面で相互に協力し

ている。

- ボランティア、学習者ともに誰でも受け入れ、規則等もなくゆるやかな感じ。和やかな雰囲気、気軽に参加できる。
- 保管されている教材には、レベル別、技能別にシールが貼られているため、ボランティアや学習者にもわかりやすい。
- 最初の15分がアイスブレイクとなり、次の個別学習へつながっている。また、この時間を全体で共有することで、教室としてまとまっている。
- 仕切りのない一つの空間なので、誰がどこで何をしているか把握しやすい。
- 最後に全員にお茶を配っていて、短時間だがいろいろな方と交流できる。
- 見学日は雪で学習者が少なかったが、ボランティアは普段と同じメンバー。ボランティアのほうが多く、学習指導にあたらぬボランティアもいた。担当を持たないボランティアは各自自由に自分のことをしていた。そのようなことはたびたびあるそうだが、特に不満が出るわけでもなく、継続的に教室に来てくれている。ボランティアにとっての快適な居場所ということか。

【課題】

- 小学校の教室を借りているため、使用できる時間と空間に制限がある。多量の資料を毎回持ち帰るのは不便だろう。
- 事前に予測はついているが、ボランティアも学習者も当日にならないと参加者がわからないので、マッチングが難しい。
- 日本語の教科書はあるがあまり使用されていないようだった。ボランティアの中には、持参した教材が古いものだったりするそうなので、ボランティア向けに教材紹介をしたらいいのではと感じた。
- ボランティアは年配男性が多く、学習者を選び好み（取り合い？）することがあるとのこと。マッチング方法について要検討。

以上

4) くすのき日本語教室

1. 新規学習者対応

- ・「日本語入会アンケート」を実施。それをもとに、能力試験対策、初級、会話に大別され、試験対策ならレベル別に、日本語能力が低い学習者は初級テーブル、ある程度の日本語能力があれば会話テーブルへ分けられる。
- ・見学日は「今日だけ学習したい」という学習者 2 名が来て、渡辺さんが対応。名前、国、ひらがな・カタカナ、日本語学習歴について口頭質問し、初級テーブルへ回す。

2. 学習者

- ・ベトナム人を中心に、タイ人、インドネシア人の研修生が 6,7 割。能力試験合格を目標とする人が多い
- ・見学日には 18 名の学習者。通常、能力試験をピークに徐々に学習者が減っていくそうだが、現在増加傾向
- ・日系人はほとんどいない。
- ・午後から YIC 日本語サークルで学習する人もいる
- ・伊賀から電車で 1 時間かけて通う技能実習生もいる（友だちの紹介とウェブサイト
で情報を得たとのこと。）

3. ボランティア

- ・見学日には 7 名（男性 2、女性 5）のボランティア。謝金なし
- ・渡辺さん他 1 名の日本語教師有資格者
- ・YIC 日本語サークルとかけもちでボランティアをされている方もいる

4. 日本語学習

- ・入室時、学習者名簿に各自チェック
- ・学習目的別に 5 つのテーブルに分かれる。
①N1&N2、②N3 ③N4 ④会話（中級） ⑤初級・サバイバル会話
①～③の能検対策のグループは試験対策用のプリントを配布し、各自解答→ボランティアとともに答え合わせおよび解説。
④の会話グループは、プリント配布し、読解→会話。見学日は「節電しましょう」というお知らせを読む。
⑤は『にほんごこれだけ』や『にほんご 45 時間』を基に会話。見学日は「～を～ます」という文型で QA
- ・最後に「学習記録」をボランティアが記入。学習者自身が管理し、持参する。
- ・帰る際に参加費 100 円を支払う。「出席カード」に押印してもらう。

5. 生活相談・情報提供

- ・適宜

6. 関係者からの意見等

- ・ボランティア不足。

7. その他

- ・9月末に教室外で茶道体験。その他イベントあり
- ・学習後にボランティアが残り、簡単なミーティングを実施。人数の確認や、学習内容の報告を行う。N2,N3のテーブルに学習者が多くなったので、レイアウトを変えたほうがいかとの意見が出た。

【ポイント】

- ・学習者は予約する必要がなく、いつでも参加できる
- ・日曜日に開かれているので、仕事等で平日に来られない方には都合がいい。そのため研修生が多数
- ・日本語教師有資格者がいるため、専門的な指導ができる。
- ・教材がある程度そろっている。
- ・日本語能力試験合格という目標があるためか、学習意欲が高く継続して来る学習者が多い。

【課題】

- ・学習者の6,7割は研修生で、能力試験合格を目標にしている。それに応えるために日本語能力試験対策講座のような指導が中心に行われている。試験を目的にしている学習者が新規に来た場合、学習者のニーズにどこまで応える／応えられるか。
- ・ボランティアが足りずコーディネーター役の渡辺さんも学習指導に入るため、全体を見渡す余裕のある人がいない。
- ・N1&N2対策のテーブルでは、ボランティアさんの指導を受けず完全に自習だけの学習者がいた。学習者のレベルが高く、ボランティアでは指導ができないのか。ボランティアさんとも他の学習者ともほとんど会話をしておらず、学習者がそれで満足しているのか疑問。
- ・N3グループは「は」と「が」のプリントを行っていた。きちんと説明しようとするなら高度な知識が求められる問題だった。実際学習者から質問が出ていたが、ボランティアが四苦八苦していた。日本語専門家ではないボランティアがどこまで応えられるか。
- ・「他のグループが何をしているのかわからない」というボランティアの声から、ボランティア間や他のグループの学習者と情報交換や交流が活発ではないようだ。学習後に少しでも情報共有の時間があればいいのでは。

- コーディネーターの渡辺さんもボランティアであり、他の仕事や活動で多忙。ボランティアだけで運営していくことの難しさを感じた。
- N2,N3 対策のテーブルに 8 名の学習者。それに対して 2,3 名のボランティアがついて指導を行っていたが、学習ペースが様々で対応が難しい。
- 学習者 16 名に対してボランティア 6 名。ボランティア不足。
- 16 名のうち 10 名が能力検定試験対策の学習者。メンバーが固定化しているので、同じテーブル以外の学習者との交流が見られなかった。

以上

5) 日本語サロン

1. 新規学習者対応

- ・ボランティアが個人情報から学習目的などをインタビューし、個別の「日本語記録表」に記入
- ・レベルやニーズ等を考慮し、その場でボランティアとマッチング

2. 学習者

- ・国籍、年齢、職業、日本語のレベルは多様。ALTも多い。
- ・毎回10名～13名。
- ・各回100円支払う（初回は徴収しない）。

3. ボランティア

- ・固定のボランティアは7名ほど。
- ・ボランティアへの謝礼なし。

4. 日本語学習

- ・基本的にはマンツーマン指導であるが、ボランティアが足りないときはグループ指導になる。
- ・会場となっている市民センターの倉庫に教材が保管できる。「みんなの日本語」をはじめ、教材はある程度そろっている。
- ・教材は学習者が持参したり、ボランティアが選定したりする。
- ・学習後に「日本語記録表」に学習内容を記入する。
- ・ボランティアの間にメーリングリストを持っており、活動後に各ボランティアは学習内容を報告することになっている。

5. 生活相談・情報提供

- ・適宜

6. 関係者からの意見等

- ・ボランティアが足りず困っている。

7. その他

【ポイント】

- ・個人記録表やメーリングリストがあるのでボランティア間で情報共有ができています。
- ・コーディネーターはいないが、ボランティアの固定メンバーが全体を把握し、上手

に運営している。

- ・市民センターの1室を借りているが教材や教具を保管できるので活動の幅が広がる。

【課題】

- ・ボランティアも学習者も当日にならないと参加者がわからないのでマッチングが難しい。
- ・ボランティアが不足していて、定着しない。
- ・ボランティアも学習者も開始時間にそろわず、パラパラと集まる。
- ・コーディネーターがおらず、ボランティアが不足しているため、ボランティア全員が指導に当たることになると、時間に遅れてきた学習者への対応が大変。

以上

6) 日本語茶屋

1. 新規学習者対応

- ・教室の代表者がオーナーであるアパートの1階を事務所兼教室として使っている。入居しているほとんどがネパール人とベトナム人であるため、入居者が自然と教室に顔を出すようである。学習希望者は入居者でなくとも誰でも受け入れる。ほぼ毎日午前から夕方まで教室が開いているが、教室に常駐する方はおらず、各ボランティアがカギを持ち、教室を開ける。その時にいるボランティアが新規学習者の対応をするが、特にインタビューやテスト等は行わない。

2. 学習者

- ・アパートに住むネパール人、ベトナム人の留学生を中心に40～50名ほどが顔なじみのメンバーであるが、一日平均2,3名の学習者が教室に来る
- ・近所のレストランで働くネパール人はほぼ毎日教室に通っているが、留学生は定期的に通う人は少ない。パーティーなどイベントがあると大人数集まる。
- ・教室そばの日本語学校に通う学生が多いため、平日は学習者が少ない。週末もバイトなどで、継続的に教室に来る学習者は少ない。訪問日は学校が春休みに入っていたため、通常より学習者が多いとのことで毎日7名前後が教室に来ている。
- ・ネパール人の学習者がほとんど。アパートに住むベトナム人は来ていない。

3. ボランティア

- ・7名のボランティアが活動。毎日活動する人もいれば、週に1度だけの人もある。各ボランティアは、活動する曜日と時間がほぼ固定している。
- ・日本語教師の有資格者が1名いる
- ・教室をコーディネートする人はいないが、週5日午後に常駐するボランティアがおり、教室やボランティア、学習者について概ね把握している。彼女は学習者から「お母さん」と呼ばれ慕われている。

4. 日本語学習

- ・学習者は参加費無料。
- ・ボランティアへの謝礼なし。
- ・最近では学習者の人数が少ないため、ボランティアとのマンツーマン学習であるが、多い時はグループ学習になる。
- ・ほぼ毎日10時半から17時まで教室が開いており、学習者はその間に来ればよく、事前予約は必要ない。その時にいるボランティアと学習する。
- ・学習内容は各ボランティアに任されているが、会話中心。
- ・教材は教室にはほとんどない。あるボランティアは「指さし帳」を使うことが多いとのこと。

- ・日本で生活するための会話力をつけることを重視。
- ・近所の日本語学校に通う学習者も多く、学校の宿題や復習をすることもある。
- ・年賀状や折り紙など文化体験も取り入れている。
- ・学習者の個人カルテや学習記録表などはない。

5. 生活相談・情報提供

- ・アパートのルールや日本で生活するうえでのマナーについて随時説明する。
- ・ボランティアが学習者を市役所や銀行に連れて行ったりするなど、生活上の手助けをすることも多い。
- ・教室運営の中心メンバーにネパール人男性がおり、学習者の様々な相談に対応している。

6. 関係者からの意見等

- ・市役所にネパール語の案内が欲しい
- ・明るく素直な学習者が多いが、時々ドタキャンがあるのが悩みのたね

7. その他

- ・市からの補助金等はなし。
- ・代表者の好意により場所の提供、光熱費等の支払いがなされ教室が運営されている。

【ポイント】

- ・アパートの1階に教室があるため、アパートの住民は気軽に参加できる。
- ・教室が空いている時間が長く、予約の必要がないので、通いやすい。
- ・近年増加しているネパール人とベトナム人にとっては「憩いの場」。
- ・学習者同士がお互いをよく知っているため、気負いなく教室に来られる。また母語で話せることから学習者にとって居心地がいい。
- ・日本語学校で理解できなかったところをボランティアや友だちに聞くことができる。
- ・日本語学校では不十分な会話練習が中心に行われており、実践する良い場となっている。
- ・留学生は普段ほとんど日本人と接する機会がないようで、日本人との接点を持てる数少ない場。

【課題】

- ・7月に開設したばかりで、場所や教材など学習環境が十分整っていない。また、市から補助を受けていないため、教材を揃える資金がない。補助を受けることを検討したいとのこと。
- ・コーディネーターがいなく、学習記録帳などもないため、担当した学習者以外の学習者がどのようなことを学んでいるのかわからない。
- ・会話中心の指導であるため、読み書きを習得したい学習者には不向きかもしれない。

- ・ネパール人とベトナム人が多く、それ以外の国籍の方は参加しにくいかもしれない。
(＊1回目の巡回日は日本語指導を行っていなかったなので、指導の様子を見学することができなかった。)
- ・学習者はほとんどネパール人男性で、教室に来ててもネパール語で話す人が多い。
- ・日本語学校に通う留学生がほとんどなので、普段は学習者が2,3名という少人数。
せつかくボランティアが来ても、教える相手がおらず手持無沙汰になってしまい、
ボランティアのモチベーションが下がってしまう。
- ・学習者は当日にならないと誰が来るかわからない。また来ると言っている連絡がなく欠席する学習者もいる。
- ・必要な教材はボランティアが各自で準備することになっており、資料代などはボランティアの自己負担。また教室には教材が不十分なので、日本語教育に携わったことがなく、経験の浅いボランティアには適切な教材の選定が難しい。

以上

ロールプレイ 1 消費活動 (物品購入)

①ほしいものを探して買う (タイプ: 質問する)

【指示文】 *母語

あなたはスーパーに買い物に来ましたが、探していた〇〇が見つかりません。まず、店員に売り場を聞いてください。次に、商品に値札がついていなかったため、店員に値段を聞いてください。

(評価)

消費活動	質問のタイプ	3	<input type="checkbox"/> 相手との関係性に応じた言葉遣いができる。	すみません、〇〇を探しているんですが、どこにありますか。
		2	<input type="checkbox"/> 長文・複文レベルでの質問ができる。	〇〇を探しているんですが、どこにありますか。
		1	<input type="checkbox"/> 短文レベル、または単語を並べた質問ができる。	〇〇はどこですか。 〇〇どこ?いくら?
		0	<input type="checkbox"/> 質問ができない。	
	質問内容の適切さ	2	<input type="checkbox"/> ほしい情報を十分に得られる質問ができる。	商品の場所、値段のいずれも。
		1	<input type="checkbox"/> ほしい情報を部分的に得られる質問ができる。	商品の場所、値段のいずれか1つ。
		0	<input type="checkbox"/> ほしい情報が相手に伝わらない。	いずれも伝えられない。

ロールプレイ2 公共交通機関（電車・バスの利用）

①窓口で行き先までの切符を買う（タイプ：質問する）

【指示文】＊母語

あなたは、〇〇駅にいます。きっぷ売り場の窓口で、〇〇から□□までの往復切符を1枚買ってください。

(評価)

公共交通機関	質問のタイプ	3	<input type="checkbox"/> 相手との関係性に応じた言葉遣いができる。	すみません、〇〇から□□までの往復切符を1枚ください。
		2	<input type="checkbox"/> 長文・複文レベルでの質問ができる。	□□まで、往復で1枚ください。
		1	<input type="checkbox"/> 短文レベル、または単語を並べた質問ができる。	□□に行きます。 □□。一人。
		0	<input type="checkbox"/> 質問ができない。	
	質問内容の適切さ	2	<input type="checkbox"/> ほしい情報を十分に得られる質問ができる。	行き先、往復、1枚のすべて。
		1	<input type="checkbox"/> ほしい情報を部分的に得られる質問ができる。	行き先、往復、1枚のいずれか1つ以上。
		0	<input type="checkbox"/> ほしい情報が相手に伝わらない。	いずれも伝えられない。

ロールプレイ3 生活マナー (ゴミ出し)

①ゴミ出しの仕方を確認する (タイプ: 質問する)

【指示文】 * 母語

あなたは、新しい家に引っ越したばかりで、この地区のゴミの出し方がわかりません。近所の人に、「燃やせるゴミ」「燃やせないゴミ」「資源ゴミ」の3つの出し方(曜日、時間帯)を聞いてください。

(評価)

生活マナー	質問のタイプ	3	<input type="checkbox"/> 相手との関係性に応じた言葉遣いができる。	すみません、ゴミの出し方を教えていただきたいんですが。
		2	<input type="checkbox"/> 長文・複文レベルでの質問ができる。	燃やせるゴミは、何曜日の何時までに捨てますか。
		1	<input type="checkbox"/> 短文レベル、または単語を並べた質問ができる。	本はいつ？ 何時まで？
		0	<input type="checkbox"/> 質問ができない。	
	質問内容の適切さ	2	<input type="checkbox"/> ほしい情報を十分に得られる質問ができる。	
		1	<input type="checkbox"/> ほしい情報を部分的に得られる質問ができる。	
		0	<input type="checkbox"/> ほしい情報が相手に伝わらない。	

ロールプレイ 4 医療

①受付を済ませる (タイプ: 質問に答える)

【指示文】 *母語

あなたは、病院の受付にいます。看護師さんに症状を伝えてください。

あなたの症状は、() です。

あなたはまだ、問診票に記入していません。

あなたは今日、診察券を忘れました。

(評価)

医	回答の タイプ	3	<input type="checkbox"/> 相手との関係性に応じた言葉遣いでやりとりができる。	今日はどうされましたか。 診察券はお持ちですか。
		2	<input type="checkbox"/> 長文・複文レベルでの質問に答えられる。	
		1	<input type="checkbox"/> 短文レベル、または単語を並べた質問に答えられる。	どこが痛いですか。 診察券ある？
		0	<input type="checkbox"/> 質問に答えられない。	
療	回答の 適切さ	2	<input type="checkbox"/> 伝えたいことを十分に伝えられる。	症状、問診票未記入、診察券の有無のすべて。
		1	<input type="checkbox"/> 伝えたいことを部分的に伝えられる。	症状、問診票未記入、診察券の有無のいずれか1つ。
		0	<input type="checkbox"/> 伝えたいことをまったく伝えられない。	いずれも伝えられない。

ロールプレイ5 緊急連絡 (110番)

①交通事故後に110番通報をする (タイプ: 質問に答える)

【指示文】*母語

あなたは、車を運転していて、交通事故に遭いました。

相手の人は、逃げてしまいました。

110番に電話して、警察に状況(自分の名前、事故が起きた時間、場所、けがの有無等)を説明してください。

事故に遭った時間は今から10分前、場所はあなたの家の前の道、けがをしている人はいません。

(評価)

緊急連絡	質問のタイプ	3	<input type="checkbox"/> 相手との関係性に応じた言葉遣いでやりとりができる。	
		2	<input type="checkbox"/> 長文・複文レベルでの質問に答えられる。	
		1	<input type="checkbox"/> 短文レベル、または単語を並べた質問に答えられる。	名前は? けが人はいますか?
		0	<input type="checkbox"/> 質問ができない。	
	質問内容の適切さ	2	<input type="checkbox"/> 伝えたいことを十分に伝えられる。	名前、時間、場所、けがの有無のすべて。
		1	<input type="checkbox"/> 伝えたいことを部分的に伝えられる。	名前、時間、場所、けがの有無のいずれか1つ以上。
		0	<input type="checkbox"/> 伝えたいことをまったく伝えられない。	いずれも伝えられない。

ロールプレイ6 子育て

①就学 (タイプ: 質問に答える)

【指示文】 * 母語

(評価)

子 育 て	質問の タイプ	3	<input type="checkbox"/> 相手との関係性に応じた言葉遣いができる。	
		2	<input type="checkbox"/> 長文・複文レベルでの質問ができる。	
		1	<input type="checkbox"/> 短文レベル、または単語を並べた質問ができる。	
		0	<input type="checkbox"/> 質問ができない。	
	質問内容 の適切さ	2	<input type="checkbox"/> ほしい情報を十分に得られる質問ができる。	
		1	<input type="checkbox"/> ほしい情報を部分的に得られる質問ができる。	
0		<input type="checkbox"/> ほしい情報が相手に伝わらない。		

1 消費活動（物品購入）

1) 次のことばの正しい日本語訳を a～d から 1 つ選んでください。

①Beef

- a. Gyuniku b. Toriniku c. Butaniku d. Ushiniku

②Vegetables

- a. Sakana b. Niku c. Yasai d. Nomimono

2) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①しお

- a. Salt b. Sugar c. pepper d. Miso

②しょうゆ

- a. Soy sauce b. Ketchup c. Mayonnaise d. Vinegar

3) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①アレルギー

- a. Allergy b. Free c. Exit d. Price

②クレジットカード

- a. Credit card b. Point card c. Receipt d. Parking tickets

4) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①半額

- a. Half price b. Cheap c. Sold out d. Fresh

②酒

- a. Water b. Alcohol c. Wine d. Juice

2 公共交通機関（電車・バスの利用）

1) 次のことばの正しい日本語訳を a～d から 1 つ選んでください。

①Ticket

- a. Kippu b. Kitte c. Kami d. Okane

②One way

- a. Katamichi b. Ofuku c. Ekiin d. Syashou

2) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①おとな

- a. Adults b. Children c. Father d. Mother

②おつり

- a. Change b. Money c. Cash d. Payment

3) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①トイレ

- a. Toilet b. Exit c. Entrance d. Keep out

②ホーム

- a. Platform b. Elevator c. Escalator d. Turnstile

4) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①特急

- a. Express b. Normal c. Subway d. Train

②優先席

- a. Priority seat b. Non smoking c. Reserve seat d. Caution

3 生活マナー (ゴミ出し)

1) 次のことばの正しい日本語訳を a～d から 1 つ選んでください。

①Recycle

- a. Risaikuru b. Abunai c. Suteru d. Gomi

②Sorting

- a. Bunbetsu b. Gomibako c. Akikan d. Kago

2) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①ごみ

- a. Trash b. Box c. Can d. Paper

②びん

- a. Bottle b. Pen c. Vinyl d. Magazine

3) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①ペットボトル

- a. PET bottle b. Refrigerator c. Sofa d. Glass

②プラスチック

- a. Plastic b. Wood c. Stone d. Rubber

4) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①水曜日

- a. Wednesday b. Monday c. Tuesday d. Sunday

②可燃

- a. Combustible b. Non-combustible
c. Recyclable d. Large-sized waste

4 医療

1) 次のことばの正しい日本語訳を a～d から 1 つ選んでください。

①Hospital

- a. Byouin b. Gakkou c. Shiyakusho d. Eki

②Ambulance

- a. Kyukyusha b. Patokaa c. Takushii d. Kuruma

2) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①かぜ

- a. Cold b. Sick c. Headache d. Injury

②くすり

- a. Medicine b. Bandage c. Plaster d. Poultice

3) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①クリニック

- a. Clinic b. Pharmacy c. Post office d. Fire department

②カプセル

- a. Capsule b. Powder c. Tablet d. Topical cream

4) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①受付

- a. Hospital reception b. Consultation room
c. Waiting room d. Operating room

②診察券

- a. Patient registration card b. Medical record
c. Insurance card d. Driver's licence

5 緊急連絡 (110番)

1) 次のことばの正しい日本語訳を a～d から 1 つ選んでください。

①Police

- a. Keisatsu b. Isha c. Syouboushi d. Bengoshi

②Thief

- a. Dorobou b. Hannin c. Kanja d. Okyakusan

2) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①ちかん

- a. Molester b. Pickpocket c. Passenger d. Motorman

②あぶない

- a. Danger b. Stop c. Safety d. Keep out

3) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①ミラー

- a. Mirror b. Signal c. Sign d. Crosswalk

②パトカー

- a. Police car b. Fire truck c. Bus d. Truck

4) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①交番

- a. Police box b. Prison c. Court d. Shop

②交通事故

- a. Traffic accident b. Ignoring signal
c. Traffic jam d. Traffic violation

6 子育て

1) 次のことばの正しい日本語訳を a～d から 1 つ選んでください。

①Family

- a. Kazoku b. Tomodachi c. Watashi d. Anata

②Pregnancy

- a. Ninshin b. Kekkon c. Syussan d. Rikon

2) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①こども

- a. Child b. Adult c. Boy d. Girl

②おしらせ

- a. Announcement b. Newspaper c. Book d. Magazine

3) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①ママ

- a. Mom b. Daddy c. Kids d. Sister

②ベビー

- a. Baby b. Student c. Young d. Old man

4) 次のことばの意味を a～d から 1 つ選んでください。

①検診

- a. Screening b. Injection
c. Blood donation d. Hospitalization

②保育園

- a. Nursery school b. Kindergarten
c. Elementary school d. High school

社会知識1 消費活動 (物品購入)

正しいと思うものに✓をしてください。

①お金を払う前に、商品の袋・箱を開けて中を出したり、食べたりすること。

- よい だめ

②お店で買ったものを返却するときは、必ずそのお店で買った商品と ()
を持って行く。

- レシート 交換してほしいもの 商品の写真 家計簿

社会知識2 公共交通機関 (電車・バスの利用)

正しいと思うものに✓をしてください。

①四日市では、バスの運賃を払うのは

- バスに乗る時 バスを降りるとき

②バスの中で、携帯電話での通話は

- してもよい してはだめ

③まちがって「降車ボタン」を押したときは

- 運転手さんに間違いを伝える そのまま何もしない

社会知識3 生活マナー (ゴミ出し)

正しいと思うものに✓をしてください。

①ゴミの出し方は

- 四日市市内はどこも同じ曜日・時間帯になっている
- 四日市市内でも地区によって曜日・時間帯が異なる

②机やベッドなどの大きなゴミ (粗大ごみ) は

- ゴミ捨て場の近くに並べておく
- 粗大ごみ受付センターに電話して取りに来てもらう

③ゴミ捨て場に欲しい物があつたときは

- まだ使える物なら持って帰ってもいい
- どんなものでも勝手に持って帰ってはいけない

社会知識4 医療

正しいと思うものに✓をしてください。

①国民健康保険や社会保険に加入していると

- 医療費はすべて無料になる
- 医療費は1～3割負担になる

②119に電話して救急車を呼ぶのは

- お金がかかる
- 無料

③保険証を忘れた場合、

- 医療費を全額自己負担しなければならない
- その場で医療費を全額支払うが、後日、保険証と領収書を持っていけば差額分を返金してもらえる

社会知識5 緊急連絡 (110番)

正しいと思うものに✓をしてください。

①警察の電話番号は

110 119 104 911

②警察に電話した時の通話料は

有料 無料

③交通事故に遭った時は

相手とよく相談してから、必要に応じて警察に連絡する
すぐに警察に連絡する

社会知識6 子育て

() に数字を入れてください。

①保育園は () 歳から入れますが、幼稚園は () 歳から入れます。

②学校は () 月から始まって、() 月に終わります。

③日本の義務教育は () 歳から () 歳までです。